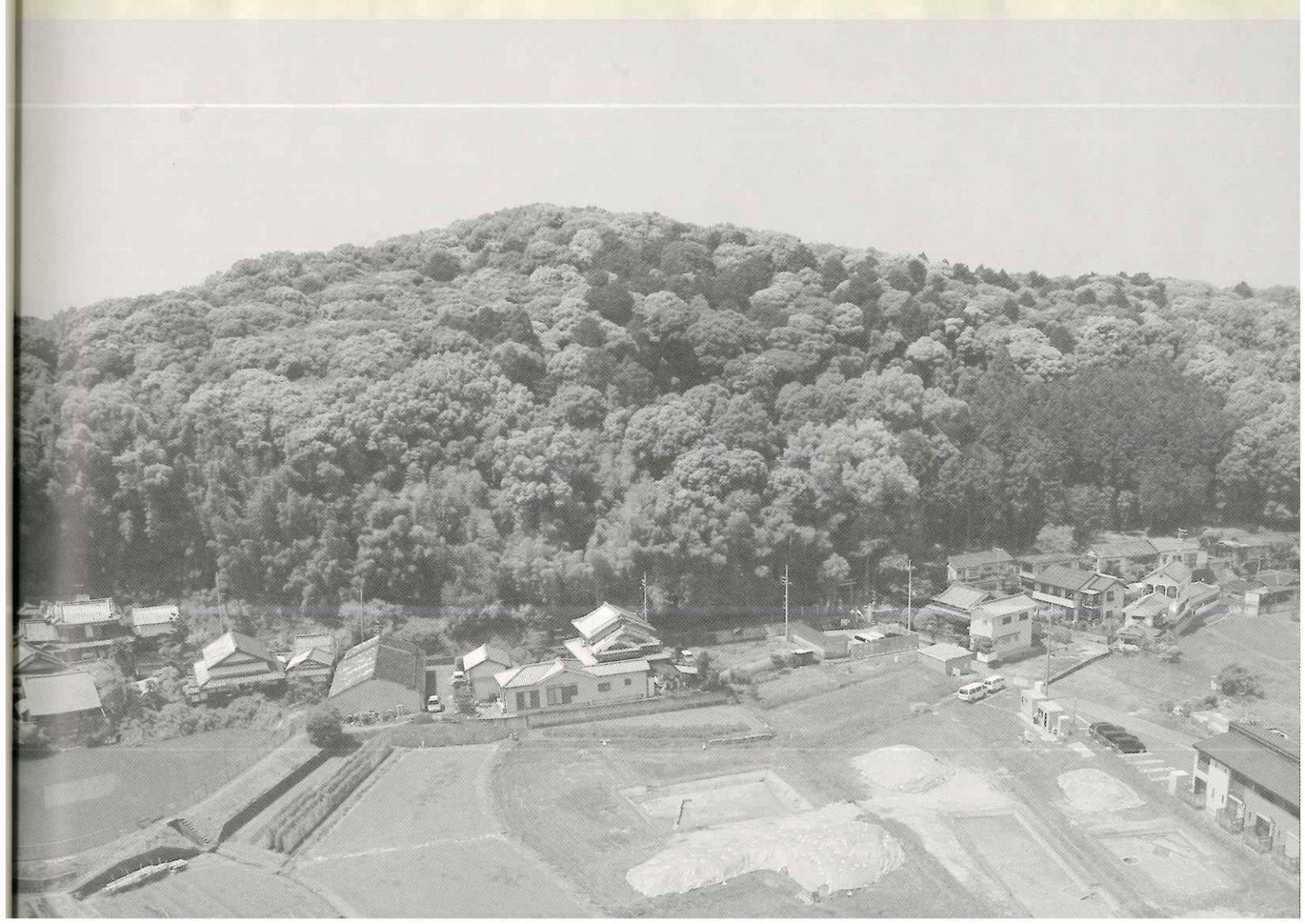


第5章 関連遺産群と歴史文化遺産保存活用地区

第1節	関連遺産群と歴史文化遺産保存活用地区	36
第2節	関連遺産群の設定基準と設定	38
第3節	関連遺産群の内容	38
第4節	歴史文化遺産保存活用地区設定の方法	56
第5節	歴史文化遺産保存活用地区の内容	56



第1節|関連遺産群と歴史文化遺産保存活用地区

本市域は、第2章で述べたように、多くの山地・丘陵とこれらに囲まれた段丘や谷部によって形成され、主にこれらの段丘や谷部に人々の営む集落が展開している。各集落は、それぞれ独自の歴史的性格を持ち、地域独自の人の営みを形成し、その営みが歴史文化遺産を生み、これらが祖先から我々の世代へと継承されてきた。この歴史文化遺産が、現在の河内長野らしい環境を形成し、住民相互を結び付け、人と地域を結びつけてきた。

この河内長野らしさを形成する歴史文化遺産は、市域の中で単体として孤立して存在しているのではなく、一定のテーマを持って、複数の文化財がまとまり、自然環境とも有機的な関連性を持ちながら存在している。ここでいう関連性とは、歴史的関連性や地理的関連性などであり、相互に関連性のある一定のまとまりとして歴史文化遺産を捉えたものを関連遺産群とする。例えば、中世寺院の伽藍には、堂宇が相互に歴史的関連性を持ちながら分布し、そこには信仰の対象である彫刻をはじめとする美術工芸品があり、周囲には子院遺構、境内林が広がり、祭礼・行事が行われている。さらに、周囲には、民家、村堂、棚田などによって構成されるかつての寺辺領が広がり、これらの世界と外部世界をつなげていた古道がある。また、江戸時代の村絵図にも描かれている里山集落には、茅葺民家、



第24図 歴史文化遺産保存活用地区位置図

鎮守の社、ため池、水路、棚田、墓地によって構成され、これらは伝統的に受け継がれてきた生業によって維持され、そこで行われている祭礼は、住民相互を結びつけ、伝統・文化を継承する主体としている。これらは、相互に密接な関連性を持ち、総体として個々の歴史文化遺産では捉えることのできない、新たな意味と価値を有している。このような価値と意味は、歴史文化遺産をより深く、理解されやすい形で広める際に大きな役割を果たす。そして、市民が地域に愛着を深め、より大きな枠組みで協働し、市外に魅力を発信する上でも重要である。

一方で、歴史文化遺産保存活用地区とは、関連遺産群の趣旨に沿った形で歴史文化遺産が集積し、効果的な活用が可能な地域のことと、一定の区域内において、現に存在しており活用が可能な歴史文化遺産のまとまりのことである。文化財建造物など典型的な文化財に加えて、塀や石垣或いは水路などこれらと一体的に空間を構成しているものすべてを含める。また、必要に応じて周辺の自然環境も含めるものとする。本市においては、このような歴史文化遺産が集積する地域は、それぞれの地域が持つ自然や歴史・文化などによる多様性がみられる。

このように歴史文化遺産を単体で捉えるのではなく、歴史的・地理的に意味を持つまとまりとして捉えることによって、単体では十分な価値づけが難しかった歴史文化遺産についても光を当てることができ、新たな魅力を引き出すことができると考える。また、このことによって、歴史文化遺産をより理解しやすい形で活用することができ、総合的な保存の方策を検討することが可能になると考えられる。このような歴史文化遺産のまとまりについての情報を市民、学校、企業、行政等が共有することで、保存の意識を高め、活用の機会が生まれるのを促進する。

以下のように5項目の関連遺産群に対して8地区の歴史文化遺産保存活用地区と1地区的歴史学習体験地区を設定するが、その関連を示すと第5表のようになる。

第5表 関連遺産群と歴史文化遺産保存活用地区の関連

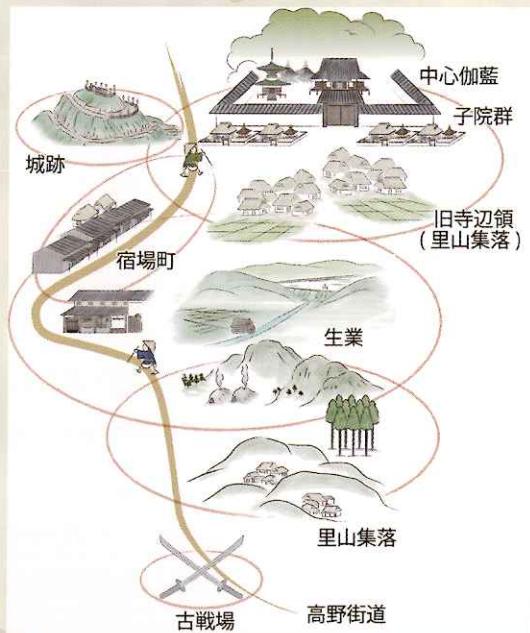
	中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群	中世城跡・古戦場跡とこれに関連する歴史文化遺産群	高野街道と宿場町と交通・観光に関連する歴史文化遺産群	里山集落の生業・生活・風習に関連する歴史文化遺産群	近世・近代における生業・産業に関連する歴史文化遺産群
高野街道沿いの歴史文化遺産保存活用地区	○	○	◎	○	○
島の谷の歴史文化遺産保存活用地区			○	◎	
流谷の歴史文化遺産保存活用地区		○	○	◎	○
観心寺と旧寺辺領の歴史文化遺産保存活用地区	◎	○		○	
滝畑の歴史文化遺産保存活用地区				◎	○
岩湧寺を中心とする葛城修験靈場の歴史文化遺産保存活用地区	○			◎	
寺ヶ池を中心とする歴史文化遺産保存活用地区				○	◎
天野谷の歴史文化遺産保存活用地区	◎	○		○	
高向地区及び周辺の歴史学習体験地区				○	

凡例：◎は主体的な関わりのあるもの。

○は関わりのあるもの

第2節|関連遺産群の設定基準と設定

市域の歴史文化遺産は、歴史的、地理的、類型的にまんべんなく分布しているわけではなく、大きな偏りがみられる。この偏りは、それぞれ時代背景や地理的環境とも一定の関りを持っており河内長野らしさを表現しているものもある。また、これらを群として適切に保存し、活用していくためには、地域住民との協働が必要である。



第25図 関連遺産群の相互関連性

のことから、関連遺産群の設定にあたり、以下の4点を設定の際の基準とする。

- ①歴史的に形成された河内長野市域の特徴を踏まえたものとする。
- ②保存活用が可能な歴史文化遺産群を含むものとする。
- ③歴史的なストーリーを持って相互に関連づけられるものとする。
- ④地域住民の活動と接点を持っているものとする。

このような基準で関連遺産群の設定を行った結果、

- 「中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群」
- 「中世城跡・古戦場跡とこれに関連する歴史文化遺産群」
- 「高野街道と宿場町と交通・観光に関連する歴史文化遺産群」
- 「里山集落の生業・生活・風習に関連する歴史文化遺産群」
- 「近世・近代における生業・産業に関連する歴史文化遺産群」を設定した。

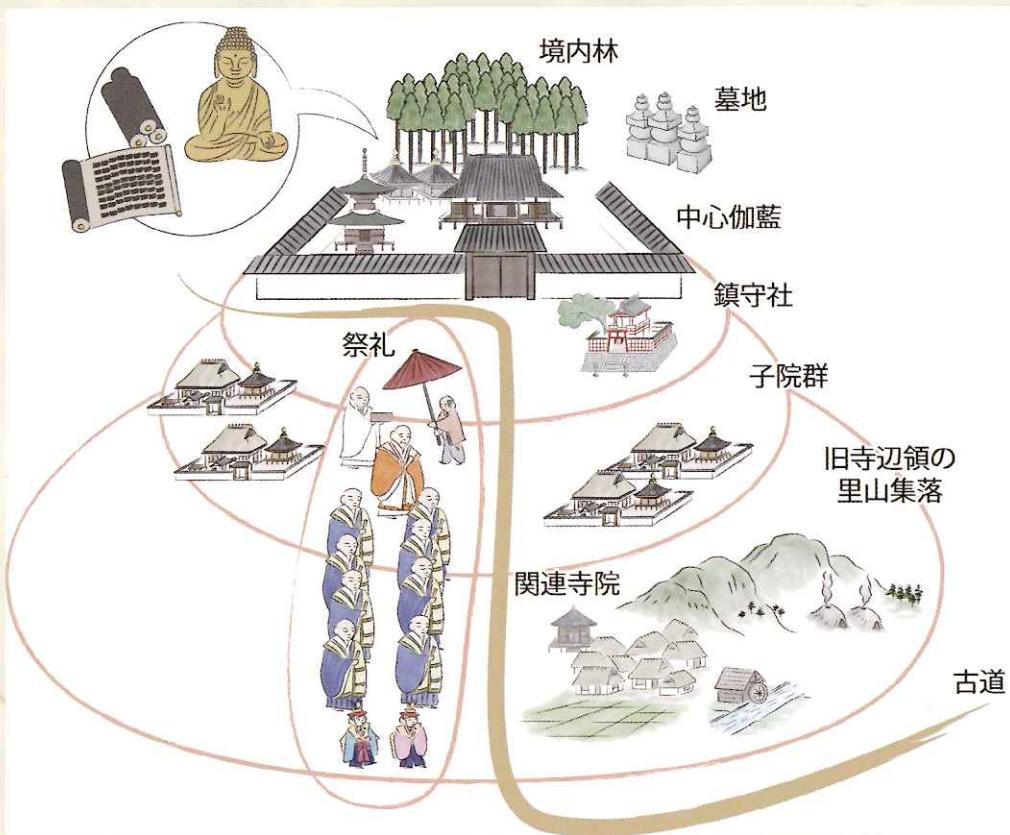
第3節|関連遺産群の内容

ここでは、設定した関連遺産群の内容を示していくにあたり、個々の関連遺産群の内容、構成要素、これらの相互関連性、現状と課題、保存活用の考え方を示すこととする。

1. 中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群

(1) 内容

宗教勢力が一定の力を持った中世において、市域は京や高野山に近く、これらの地域と歴史的な繋がりを持ち、多くの宗教に関連する遺産を産み出した。この状況をよく示すのが、觀心寺、金剛寺に代表される大型の一山寺院の存在である。これらの寺院では、中心伽藍に多くの堂宇を持ち、周囲には、鎮守社、僧侶の住まいである子院



第26図 「中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群」のイメージ

の坊舎群、門前の集落が自然地形に沿って配置されており、都市的な空間を形成し、市域有数の人口密集地となっていた。また、これらの背後には、寺院に多くの資材を供給してきた境内林が広がり、さらに外部には、観心寺における観心寺七郷、金剛寺における天野谷などの寺辺領が位置し、街道は、これらを相互につなげるとともに外部世界ともつながっていた。これらの一山寺院の隆盛時期と市域の発展の時期は重なっており、政治、文化、経済の各分野において一山寺院の隆盛が市域の発展へ少なからぬ影響を与えていた。

現在このようなテーマに関連する歴史文化遺産としては、中心伽藍や子院の文化財建造物、祭礼の対象や法具などの美術工芸品、境内の地形、周囲の山林、かつての寺辺領にある村落景観、村堂、石造物、古道等がある。

(2) 関連遺産群を構成する歴史文化遺産

関連遺産群を構成する主な歴史文化遺産としては第6表のようなものがある。

第6表 中世一山寺院とこれに関連する有形・無形の歴史文化遺産群

伽藍を構成する堂宇

中世～近世

中心伽藍を構成する堂宇の多くは、指定文化財として良好に遺存している。視認性が高く、歴史的景観の重要な構成要素となっている。



観心寺金堂（国宝）

鎮守社

中世～近世

両寺院の境内には、鎮守社があり、神仏習合の伝統を今日に伝えている。観心寺では中世、金剛寺では近世初頭の鎮守社がある。

金剛寺の鎮守社
(鎮守 丹生高野明神社 (府指定))**子院**

中世～近世

両寺院は多くの子院をしたがえていた時期があり、金剛寺で約100坊、観心寺で約50坊があったとされるが、近世における寺領の喪失や明治期の廃仏毀釈によって多くが失われている。



金剛寺子院摩尼院

関連寺院の堂宇

近世

両一山寺院と歴史的な背景の中で関連を持つ寺社が旧寺領を中心として存在している。下岩瀬にある薬師寺は、観心寺子院の薬師堂を踏襲したものと考えられる。



岩瀬薬師寺

彫刻

古代～近世

両寺院を中心として、古代から中世にかけての仏像彫刻が数多く伝わっている。全国的にみれば稀少な古代・中世の彫刻が多く存在する点は本市の特徴をなしている。

左 如意輪觀音半跏像（観心寺蔵 重文）
右 大日如來坐像（金剛寺蔵 重文）**密教絵画**

中世～近世

両寺院は密教寺院であり、信仰の対象として、あるいは儀礼を行うために必要な祭具として密教絵画を所蔵している。



大隨求菩薩像（観心寺蔵 重文）

絵図

中世～近世

中世時点を描いていると考えられる絵図と近世に描かれた絵図が各寺に伝わっている。



観心寺境内図（観心寺蔵）

法具、工芸品

中世

儀礼を行うために必要な密教法具や工芸品が各寺院に所蔵されている。



木製密教法具（金剛寺蔵 市指定）

甲冑・刀剣

中世

中世を通じて、地元の有力寺院として栄えたため、多くの武具・刀剣類が奉納されて伝わっている。



腹巻及膝鎧（観心寺蔵 重文）

文書

古代～近世

両寺院には、国宝観心寺縁起資財帳や国宝延喜式神名帳をはじめとする古代から近世にかけての文書が多く残されている。



観心寺縁起資財帳(観心寺蔵 国宝)

境内

中世

両寺院の境内には、堂宇をともなった中心伽藍、子院の遺構、かつて存在した子院の平場などが存在している。



金剛寺中心伽藍（国史跡）

埋蔵文化財

古代～近代

地下には、関連寺院や寺辺領を構成した村落に関連する埋蔵文化財が存在しており、発掘調査によって一部の内容が明らかになつたものもある。



千早口南遺跡

古道

古代～近代

両寺院ともに交通の要衝に位置しており、観心寺には大沢街道、金剛寺には天野街道など付近に現在も古道が残っている。



旧大沢街道

境内林

各寺院に建築資材、修復資財を供給し続けてきた境内林は文化庁が選定する「ふるさと文化財の森」として保全されている。



金剛寺境内林

墓地

中世～

両寺院の墓地には、中世以降の多くの墓があり、河内守護畠山秋高の墓地なども存在している。



観心寺墓地にある畠山秋高の墓

祭礼

両寺院では、歴史的に受け継がれてきた祭礼がある。

(3) 各歴史文化遺産の相互関連性

一山寺院伽藍の堂宇、彫刻、祭礼、周囲にある人工的自然環境としての境内林については、現在も信仰の対象として一体的に活用されており、相互の関連性が自明である。伽藍の周囲にある子院或いは子院遺構との関連についても、文献史料によって関係が明らかになっている。かつての寺辺領にある文化財については、関係が窺えるものも存在する。



天野山金剛寺の正御影供（市指定）

(4) 現状と課題

中心伽藍は良好な状態で遺存しており活用も進んでいる。一方で、子院遺構は大部分が失われており、子院と一体となった往時の価値や姿については十分に情報発信ができておらず、現存する各建造物についても十分な調査が完了していない。また、歴史的に形成された両寺院と地域との結びつき、或いは他の社寺との結びつきがどのようなものであったのか、十分に明らかにされておらず、かつての寺辺領にある歴史文化遺産の評価・保存活用が進んでいない。

(5) 保存活用の考え方

観心寺と金剛寺は文化財保護法（昭和25年法律第214号）に基づく史跡に指定されており、保存管理計画・史跡整備計画に基づいて、保存と活用をはかる。また、各寺院の堂宇、文書、祭礼について調査・研究を進め、子院も含めた往時の姿をハードもしくはソフトの手法を用いて顕在化させ、教育資源、観光資源として情報発信する必要がある。

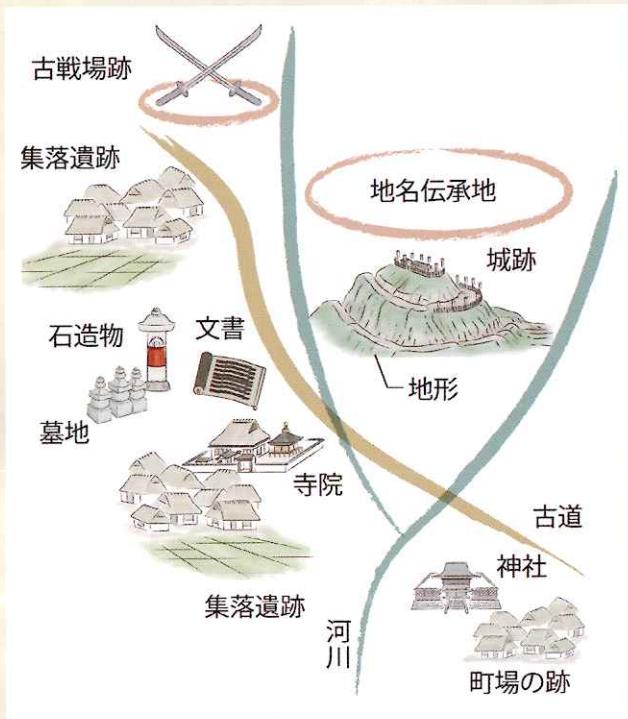
また、各一山寺院とかつての寺辺領にある歴史文化遺産の関係についても調査・研究を進め、これらの地域との歴史的なつながりを解明し、これまで評価が進んでいなかった歴史文化遺産についても、保存活用を進める。

2. 中世城跡・古戦場跡とこれに関連する歴史文化遺産群

(1) 内容

市域は、中世において大きな経済力を持っていました畿内の外縁部にあたり、市内南部に広がる和泉山脈は、畿内と畿外を区画する分水嶺となっていました。また、中世において市域は、河内の国の防衛線ともなっていました。また、市域にある一山寺院は、大きな経済力を持っていたため政治的な拠点となったりもあり、本市は、治承・寿永の内乱期、南北朝時代、戦国時代に主戦場となったり。例えば、南北朝期前後には、市内南部にある天見で鎌倉方と楠木方の合戦が行われ、南朝の拠点であった金剛寺が北朝方の攻撃にあった。戦国時代には、多くの山城が築造され、このような山城の一つである烏帽子形城をめぐっては、何度も攻防があり、戦国時代を通じて、多くの文書で確認できる。観心寺が畠山氏の陣所にあてられたという記録があり、畿内南部での合戦の推移が金剛寺文書や観心寺文書で確認できる。

現在このようなテーマに関連する歴史文化遺産としては、古戦場跡、山城跡・伝承地、戦乱に関わる町場、道、寺院、あるいは文書などをあげることができる。



第27図 「中世城跡・古戦場跡とこれに関連する歴史文化遺産群」のイメージ

(2) 関連遺産群を構成する歴史文化遺産

関連遺産群を構成する主な歴史文化遺産としては第7表のようなものがある。

第7表 中世城跡・古戦場とこれに関連する歴史文化遺産群

城跡

中世

市内には、23ヶ所の城郭伝承地があり、これらの内3ヶ所において現地で遺構が確認されている。中でも烏帽子形城跡は、中世城郭と近世城郭を結ぶ貴重な構造がみられ、現在、国指定の史跡となっている。



烏帽子形城跡（国史跡）

古戦場跡

中世

市域は、治承・寿永の内乱期、南北朝期、戦国期の3回にわたって、金剛寺、天見、日野等が合戦の舞台となっており、古戦場跡が複数存在している。

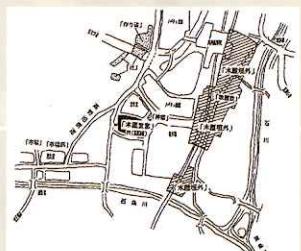


大永4年の合戦の古戦場跡

町場の跡

中世

現在の河内長野駅周辺には、木屋堂とよばれる町場があり、長禄4年（1460）年に起こった嶽山合戦では、幕府軍が嶽山城に籠もる畠山義就を攻撃する際の拠点となっていたと考えられる。



木屋堂の位置

同時期の関連する寺社

中世

長野町にある長野神社本殿や喜多町にある烏帽子形八幡神社本殿は、室町時代の社殿であり、前者は木屋堂と関連する歴史文化遺産である。後者は烏帽子形城跡に接している。



長野神社本殿（重要文化財）

観心寺・金剛寺

中世

中世を通じて大規模一山寺院として栄え、市内有数の人口密集地であった両寺院は戦略上の拠点ともなり、南北朝、戦国期の両内乱期において行宮や陣所となった。



金剛寺境内（国史跡）

同時代石造物

中世

史跡烏帽子形城跡周辺には中世の石造物も一定数が分布している。



蓮光寺笠塔婆

文書・典籍

中世

観心寺・金剛寺・日野観音寺等には、史跡烏帽子形城、あるいは市域で行われた合戦の様子を今日につたえる文書が多く残されている。



観心寺文書 畠山義就 禁制

古道

中世

城郭は交通の要衝に築造されている場合が多いため、市内でも古道に沿って城郭が築造されている。



高野街道

墓地

中世

上田墓地には、河内守護を出した畠山家の義深の墓と伝えられている墓石が存在し、観心寺には、河内守護畠山秋高の墓がある。



観心寺墓地

埋蔵文化財

中世

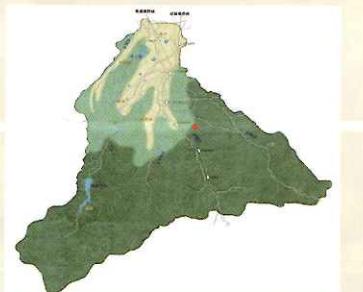
城郭跡の周囲には、同時代の集落遺跡や墓地などの埋蔵文化財包蔵地が分布している。



大日寺遺跡の墓地遺構

地形

市内では、南に和泉山系、東に金剛山系があり、これらの丘陵から派生した尾根に城郭が立地しており、自然地形の持つ戦術上の価値が活かされている。



河内長野市地形図

(3) 各歴史文化遺産の相互関連性

城郭は、地理・地形における戦略上の価値を考慮して築造されているため、周囲の丘陵や河川などの自然地形、或いは道、集落などと密接な関連の基に立地している。また、観心寺と金剛寺に残された文書には、合戦の歴史を直接あるいは間接に示すものも存在している。この他、小字名に城郭や城郭周辺の町場の跡を示すものが残っている。

(4) 現状と課題

中世城郭の内、現状で城郭遺構が地表面で観察できるものは、烏帽子形城跡、石仏城跡、旗蔵城跡の3箇所である。これらの内、烏帽子形城跡については平成24年に国の史跡となり、保存措置や活用・公開が行われているが、石仏城跡、旗蔵城跡については、このような保存のための措置や公開ができていない。また、古戦場跡など城郭以外の歴史文化遺産は価値の顕在化が進んでおらず、普及啓発や活用も進んでいない。

(5) 保存活用の考え方

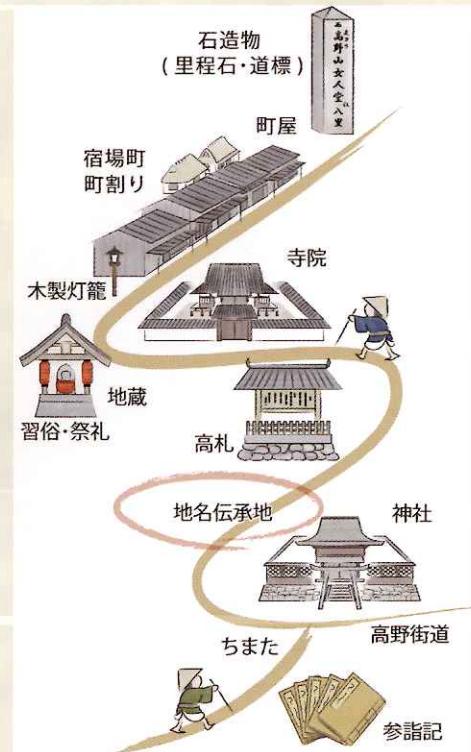
国の史跡である烏帽子形城跡を中心とした、中世城跡群と関連遺跡全体を相互に関連づけ、一体のものとして保存活用を行っていく。

3. 高野街道と宿場町と交通・観光に関する歴史文化遺産群

(1) 内容

高野街道は市内を南北に縦走しており、中高野街道と西高野街道、西高野街道と東高野街道の合流地点が市内に存在する。弘仁7(816)年に空海が高野山を開創し、平安中期以降京の皇族、公家が参詣をはじめ、江戸時代に入ると民衆も盛んに高野山参詣をはじめた。それにともない、高野街道が形成され、宿駅である三日市宿が置かれた。市域も高野街道に沿った人の流れやものの動きとともに栄えてきた経緯がある。このような経緯から近世以来、観光のまちとして栄え、市域各所が河内名所図会や近代の鳥瞰図などによっても紹介されてきた。現在においても、旧街道に沿って旅籠の趣を残す町屋、石造物（里程石、道標、地蔵、常夜灯）が残っている。

また、近代になると高野鉄道が長野駅を開設し、長野遊園も整備され、また温泉街と



第28図 「高野街道と宿場町と交通・観光に関する歴史文化遺産群」のイメージ

しても賑わいをみせた。このようなことから市内には、交通・観光に関連する歴史文化遺産が数多く存在している。

現在このテーマに関連する歴史文化遺産としては、古道、町屋建築、旧宿場町の景観やこの構成要素、街道に沿って位置する石造物等がある。

(2) 関連遺産群を構成する歴史文化遺産

関連遺産群を構成する主な歴史文化遺産としては下表のようなものがある。

第8表 高野街道と宿場町と交通・観光に関連する歴史文化遺産群

町家

近世～近代

三日市宿の置かれた三日市町には旧旅籠の趣を残す町屋建築がある。長野町にも商店街や高野街道沿いの地区につし2階構造の民家が多く残っている。



八木家住宅（国登録）

寺社

近世

旧宿場町の中には、近世時点から存在し、景観構成要素となっていた寺社建造物やこれを踏襲した建物が存在している。



月輪寺

天見温泉

近代

かつて市内には、長野、三日市、天見などに温泉旅館があった。現在では天見地区に温泉旅館が残っている。



南天苑本館（国登録）

地蔵

近世

高野街道に沿って、多くの地蔵が残っている。中には、固有の伝承を持つものも存在する。



胸切地蔵

木製灯籠

近世～近代

旧三日市宿内にある町屋には、木製の灯籠が設置されており、現在、八木邸等でこれが残っている。



旧三日市宿の木製灯籠

石造物

近世

里程石、道標、地蔵、常夜灯など、高野街道の整備や利用にともなって設置された石造物が多く存在している。



八里里程碑

鍾馗像

近世・近代

鍾馗とは、疫病神を追い払い、魔を除くという神である。近畿から中部地方にかけての多くの町屋の屋根には瓦製の像がある。市内では本地区でみることができる。



鍾馗像

絵図・鳥瞰図

近世の観光指南書や近代の鳥瞰図があり、古くから「観光のまち」として栄えてきた様子を今日に伝えている。



西国三十三所名所図会
長野町を中心とする楠公史蹟鳥かん図

引札

近代

引札とは、広告用のちらしであり、市内の温泉旅館の引札が伝わっている。



三日市村油屋庄兵衛引札
(大阪歴史博物館所蔵)

参詣記

中世

『山槐記』や『御室御所高野山御参籠日記』など皇族や貴族の参詣記があり、これらには「長野」や「石瀬」(岩瀬)の河内長野市域の地名も登場する。



『山槐記』(関西大学図書館蔵)

文書

近代

三日市町・上田町には、かつての村落形態や宿場町の運営を窺い知ることのできる文献史料が残されている。



三日市村明細帳（南家文書）

交通遺産

近代

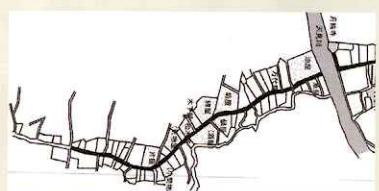
現在では使用されていない鉄道のレンガ積みの橋脚や廃線跡等がある。



三日市町の旧橋脚

町割り

旧宿場町であった三日市町・上田町には、独特の町割がみられる。



旧三日市宿の町割

伝承

長野、三日市では宿場町或いは交通に関連する伝承が残っている。



松屋坂

習俗・祭礼

三日市町・上田町の旧宿場町には観音講、三夜講、薬師講などの講があり、多くの祭礼が伝えられている。



三夜講の様子

(3) 各歴史文化遺産の相互関連性

近世の高野街道及びこの宿駅として設置された三日市宿に関する歴史文化遺産と、近代の鉄道交通に関する歴史文化遺産に大別できる。それぞれのテーマを基に各歴史文化遺産を関連づけることができる。

(4) 現状と課題

高野街道については、長野町～三日市町間の一部が平成21年から平成24年にかけて美装化され、旧三日市交番が地域の歴史と文化の情報発信拠点となって以降、旧

高野街道を歩くハイカーも増加している。高野街道沿いのまち並みを保存する条例などはまだ未整備であり、歴史的な景観を構成する建築物が撤去され、新しい建物が建築される事例もみられる。また、歴史的な古道は消火活動などで緊急車両が通行する道路としては幅員が狭い場所もみられるため、防災と文化遺産保存の両立を検討する必要もある。

なお、沿道の地域のうち、これまで高野街道の美装化の対象とはならず、活用が進んでいなかった地域の歴史文化遺産についても保存活用を行う必要がある。

(5) 保存活用の考え方

景観の構成要素は、現役の生活のための施設であるものが多いため、建築物や構造物については、住民の理解を得つつ保存措置をとる必要がある。また、祭礼、伝承などの無形の歴史文化遺産を含めた関連遺産群としてのまとまりを展示施設における催しのテーマとし、市内小中学校で行われている郷土歴史学習で活用していく。

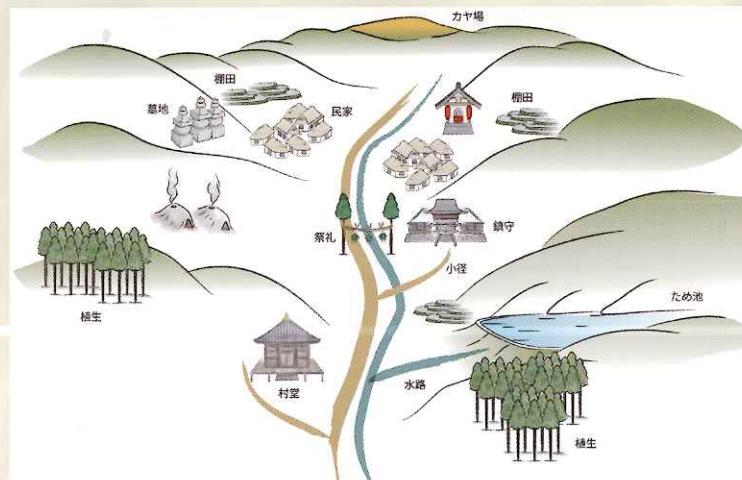
今後、地区内にある寺院、民家で所蔵されている文書や歴史資料の詳細調査を引き続き実施し、研究を行っていく必要がある。

4. 里山集落の生業・生活・風習に関する歴史文化遺産群

(1) 内容

市内には、周囲を山地・丘陵に囲まれた地形的に独立性の高い空間に、鎮守、村堂、茅葺民家、山林、棚田、溜池、水路、墓地、茅場、祭礼、生業などを景観構成要素とする里山集落が存在する。これらの里山集落の多くは、中世以降、荘園や国衙領を構成する郷や近世村落として地域的、政治的な単位となり、それぞれが固有の歴史を持っている。また、これらの里山集落は、村明細帳、正保郷帳写、宗旨御改帳などの近世文書、村絵図によって歴史的な状況を窺い知ることができる。

現在このようなテーマに関連する歴史文化遺産は、重要文化財山本家住宅、左近家住宅など指定文化財を含むが、多くが保存の措置がとられていない未指定文化財であり、これらが織りなす文化的な景観に歴史文化遺産としての価値がある。



第29図 「里山集落の生業・生活・風習に関連する歴史文化遺産群」のイメージ

(2) 関連遺産群を構成する歴史文化遺産

関連遺産群を構成する主な歴史文化遺産としては下表のようなものがある。

第9表 里山集落の生業・生活・風習に関連する歴史文化遺産群

民家

近世～近代

山間部を中心に、茅葺民家が多く分布している。多くはトタン等の覆いが設置されており、茅葺きの外観が残るものは少ない。島の谷、流谷など密集して遺存している場所がある。



旧梶谷家住宅（市指定）

寺社（跡）

近世

里山集落には、村の鎮守や村堂が存在する地区が多く、祖先供養や地域の祭礼の中心となる一方で、歴史的景観の構成要素となっている。



流谷・下天見地区の八幡神社

棚田

近世～近代

山間部の民家の周囲には、棚田が広がっている。多くは、コンクリートではなく、石垣を積むことで築造されており、歴史的景観の構成要素となっている。



下天見地区の棚田

地蔵

近世～

里山集落の中には、地蔵などの石仏を祀る小堂が存在している。



島の谷地区の辻觀音堂

墓地

中世・近世～

里山集落での埋葬、供養の場として墓地がある。



下岩瀬地区アシガザワ墓地

絵図

近世～

近世に絵図として描かれている里山集落も多い。



鬼住村絵図

小径

民家の間には、趣のある小径が残っている。



島の谷地区

水路・ため池

棚田へ水を引くために設置された池、水路があり現在でも使われている。水路はコンクリートで護岸されているものもあるが石積護岸のものも残っている場所がある。



野作地区の水路

地形

里山集落の多くは、谷部に位置しているため、中央部を谷川が流れ、両側には山地が迫っている景観が特色となっている。



下天見地区の地形

植生

里山集落の伝統的生業形態の一つとして林業があり、周囲にある山地の多くは植林された人工の林となっている。



流谷地区の人工林

習俗・祭礼

各里山集落では、年中行事や寺社で行われる祭礼が今に伝わっている。



八幡神社の勧請縄かけ神事（市指定）

(3) 各歴史文化遺産の相互関連性

「里山集落の生業・生活・風習に関する歴史文化遺産群」を構成する歴史文化遺産は、伝統的な山間部の「なりわい」、「くらし」、「信仰」によって相互に結びつけられている。また、異なる里山集落間にも婚姻などを通じた結びつきがある。

(4) 現状と課題

「里山集落の生業・生活・風習に関連する歴史文化遺産群」に関連する歴史文化遺産は住民自らが継承し、我々の身近な地域での生物多様性を支えるものとなっており、また、日本の原風景ともなっている。これらは、現在も「なりわい」や「くらし」の中で維持されており、これらの歴史文化遺産を保護していくには、生業、産業をなんらかの形で残し、活かしていくことが必要になる。

無形のこれらの歴史文化遺産の多くは、これまであまり文化遺産としての認知や評価が進んでいなかった。現在、このような有形、無形の歴史文化遺産を保存し継承している担い手である住民の高齢化が進んでおり、また生産活動、特に農林業の変化が将来にわたり保存継承していく上での大きな課題となっている。

(5) 保存活用の考え方

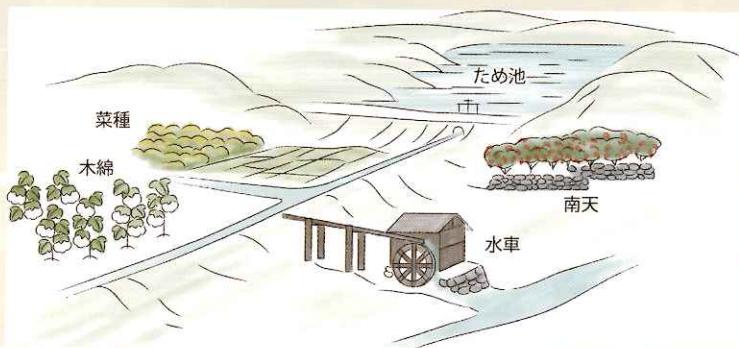
日常生活に埋没している歴史文化遺産の意義を適切に評価することを通じて、その価値を明示し、様々な場で普及啓発を行い、より多くの人々で里山集落が形成されてきた歴史と価値の共有化をはかる必要がある。この上で、生産活動などを含めた保存継承にあたり、外部の住民も参加できる仕組みの構築が必要である。

5. 近世・近代における生業・産業に関する歴史文化遺産群

(1) 内容

本市は、農業に生業の基盤を置いてきたが、先進地である畿内の一隅を占め、また近世以降においては大都市であり、大消費地である大坂周辺の農村であったため、菜種、木綿、南天などの商品作物の活発な栽培や新田開発など独自の特色も持っていた。この他、炭、茶、鋳物業、酒造業も存在していた。また、水利の確保を目的に築造された溜池、水路も存在している。このようなため池は、近世の新田開発事業の中で築造され、開発とともに伝承が現在にも伝わっている。特に慶安2年（1649）頃に築造された寺ヶ池と寺ヶ池水路については、中村与次兵衛の偉業が小学校の副読本にも登場する。

また、近代以降は、水力を使った製品の加工等も盛んに行われた。このような生業・産業に関する歴史文化遺産は、本市の立地条件と関係を持っており、河内長野しさを保存する上で重要な要素となっている。



第30図 「近世・近代における生業・産業に関する歴史文化遺産群」のイメージ

(2) 関連遺産群を構成する歴史文化遺産

関連遺産群を構成する主な歴史文化遺産としては下表のようなものがある。

第10表 近世・近代における生業・産業に関する歴史文化遺産群

溜池

近世～

市域で近世以降に行なわれた新田開発とともに、新田、水路と一体的に築造された溜池が残されている。



寺ヶ池

水路・ため池

近世～

棚田へ水を引くために設置された池、水路があり使われている。水路はコンクリートで護岸されているものもあるが石積護岸のものも残っている場所がある。



野作地区の水路

水田

近世～

水田は区画整理、周辺の土地開発によって形態や景観は大きく変化しているものもあるが、絵図に描かれたものが、現在でも確認できる場合もある。



高向地区的水田

酒造

近世～

市内では古くから金剛寺で僧坊酒が作られていたという記録があり、近世以降には、長野、三日市でも酒造が行われ、長野では現在でも営業を行っている。



西條合資会社旧店舗主屋（国登録）

水車

近代～

市内には、農業用の水車、工業用の水車の2種類があった。後者には大型のものもある。



寺元地区的水車

鉄物

近世～

河内鉄物師の流れを組む鉄物業が本市にも伝わり、当初上田町に伝わった鉄物技術は、長野町へも伝わった。



坩堝

炭焼

近世

市内では、平安時代より炭の生産が行われており、滝畠地区では近世に良質の炭が生産されていた。



枝炭（市指定）

商品作物

近世～

近世以降に、ユリ科の植物である麦門冬や石見川草、南天等の薬草が栽培され、また茶の栽培が行われていた。



麦門冬

民具

近世～

17世紀以降、摂津・和泉・河内では棉栽培が盛んになり、本市で栽培された「長野木綿」は上質の木綿として知られた。綿繰り機、糸車、機織り機などの民具が遺存している。



綿繰器

(3) 各歴史文化遺産の相互関連性

まず、農業に係る歴史文化遺産があり、これらは開発の歴史的な経過において、或いは現在の景観的なまとまりにおいて相互に強い関連性がみられる。次に産業に係る歴史文化遺産については、市域の立地状況、風土によって特色づけられるものが多い。これらの農業に係る歴史文化遺産、産業に係る歴史文化遺産が集まり伝統的な市域における生産活動をなしている。

(4) 現状と課題

農業に係る歴史文化遺産に関しては、多くが現役の施設であり、水路は水利組合等が管理を行っている。また、水田については所有者による維持管理が行われている。管理者に一定の高齢化がみられる。また、施設の改修などによって石積の護岸がコンクリート製のものに変更されるなどの変化がみられる。一方で水車などの伝統的産業に係る歴史遺産については、殆どが消滅しており、現在では現役で稼動しているものはない。今後、どのような形で維持・保存していくか検討を要する。